

西東京市郷土資料室 企画展示

渋沢栄一が生きた時代 ―田無・保谷の歴史のあゆみ―

～渋沢栄一“縁^{ゆかり}の人”たちの志の跡を追う ～展示概要編～

【展示の内容】

■ 渋沢栄一“縁^{ゆかり}の人”たちと田無・保谷

渋沢栄一の生涯を追う〔天保 11（1840）年～昭和 6（1931）年〕

〔日本の実業を作り上げた男〕 誰もが幸せに暮らせる世の中を！



渋沢栄一・肖像 深谷市提供



旧渋沢邸 中の家外観 深谷市提供

■ 展示資料紹介

- ・ 渋沢栄一 詳細年譜
- ・ 渋沢史料館:提供写真資料

幕臣時代の渋沢栄一、徳川昭武一行集合、洋装の渋沢栄一、渋沢栄一・古希
第一国立銀行、王子製紙株式会社、大日本麦酒目黒工場、東京瓦斯株式会社

“近代日本資本主義の父”



渋沢栄一

天保 11 (1840) 年
昭和 6 (1931) 年
(享年) 91 歳

〔配偶者〕

・千代 (1858-1882)
・兼子 (1882-1934)

〔子ども〕

・篤二 (長男)
・敬三 (孫) 他

・一橋慶喜・家臣

・徳川昭武渡欧随行者

・静岡藩出仕

商法会所設立

・民部省・大蔵省出仕

・実業家 (関係した業種)
第一国立銀行などの銀行
鉄道、エネルギー
保険、紡績
証券取引所

・ノーベル平和賞候補

・渋沢栄一は天保 11 (1840) 年に、深谷市の血洗島の農家に生まれました。

・幼い頃から家業である藍玉の製造・販売、養蚕の手伝いをしました。

・父の市郎右衛門から学問の手ほどきを受け、7 歳になると、隣村のいとこの尾高惇忠のもとへ論語などの学問を習いに通いました。

・20 代で尊王攘夷思想の影響を受け、惇忠や惇忠の弟の長七郎、いとこの渋沢喜作らとともに、高崎城乗っ取りや横浜外国人商館焼打ちを計画しましたが、長七郎の強い反対を受け、計画を中止しました。

・その後、喜作とともに京都へ向かい、一橋慶喜に仕官することになりました。

・一橋家で実力を発揮した栄一は 27 歳の時に、慶喜の弟・徳川昭武に随行してパリ万国博覧会を見学し、ヨーロッパ諸国の実情に触れることができました。

・明治維新となって帰国すると、日本で最初の株式組織「商法会所」を静岡に設立し、その後大隈重信に請われて明治政府に出仕します。

・栄一は、富岡製糸場設置主任として製糸場設立に関わりました。

・大蔵省を辞めた後、実業界に転身して、民間人として株式会社組織による企業の設立・育成に力を発揮するとともに、「道德経済合一説」いわゆる「右手にそろばん、左手に論語」を唱え、第一国立銀行をはじめ、約 500 もの企業に関わりました。

・また、約 600 もの社会公共事業、福祉・教育機関の支援とアメリカや中国などとの民間外交にも熱心に取り組み、数々の功績を残しました。